

—2020年度 卒業式より—

魂譲り（譲り手）

今日、私たちは活水女子大学での学びを終え、それぞれに与えられた新たな道を歩もうとしています。これまでの学生生活を振り返ると、様々な人、言葉、経験、自分との出会いがあり、その全てに豊かな学びがありました。時には壁にぶつかることもありましたが、いつもその「出会い」が私たちの支えとなり、試練を乗り越えさせてくれました。そして今日、ここに私たち 270 名の卒業生は喜びと祝福の心と共に、集まることができました。

活水学院は今から 142 年前、愛と奉仕を建学の精神として掲げ、「この学院に連なるすべての者が、いつまでも渇くことない活ける水を豊かに汲み取り、永遠の命をえるように」との祈りを込め、エリザベス・ラッセル先生が創立されました。この手桶には、その思いが満ち溢れており、ここに結ばれてきたリボンの一本一本には、先輩方の祈りが込められ、活水の伝統として今もなお受け継がれております。

今回私は、卒業生を代表して、「白」と「紺碧色」のリボンを新たに結び加え、在学生の皆様にお譲りします。白色のリボンには、「まっさらなキャンパスのように、様々なものを受け止めながら柔軟に学んでほしい」との願いを、紺碧色のリボンには「真夏の日差しのように、強い意志を持って光の方へ進んでもらいたい」との願いを込め、お譲りいたします。

在学生の皆様、どうかこのリボンに込められた思いを心に留め、「活ける水を汲み取るもの」となってください。皆様の歩みの支えとなるよう、新約聖書フィリピの信徒への手紙 1 章 9-10 節をお贈りいたします。「私はこう祈ります。知る力と見抜く力を身につけて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。」

この日まで私たちの学びを支えてくださった教職員の皆様、励まし合いながら共に歩んできた友人たち、また活水へ通わせてくれた家族、そしていつも共にいて導いてくださった神様に感謝いたします。最後に、活水学院の上に、神様の豊かな祝福とお恵みがこれからも限りなくありますよう心よりお祈り申し上げます。

高濱 宥樹（音楽学部音楽学科 卒業生）

魂譲り（受け手）

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

ただいま、これまで多くの先輩方より受け継がれてまいりましたこの手桶をお譲り頂きました。今年は新たに、「まっさらなキャンパスのように、様々なものを受け止めながら柔軟に学んでほしい」との願いを「白のリボン」に、「真夏の空のように、強い意志を持って光の方へ進んでほしい」との願いを「紺碧色」のリボンに託し、結び加えて頂きました。

わたくしたち在校生は、この 2 本のリボンに込められた思いを心に刻み、「永遠に渇くことのない、活ける水」をくみ続ける活水の学生として、歩んでまいりたいと思います。

卒業生の皆様は、この学び舎で、神様からの限りない愛を受け、先生方やご家族の祈りに支えられながら、励まし合いながら歩んできた友人と共に様々な体験や学びを通して大きく成長され、今日、晴れの日を迎えられました。これからは、それぞれの道を歩んでいかれますが、喜びや感謝の時ばかりではなく、忍耐が試されるときや、困難を覚え全てを投げ出したくなることもきっとあると思います。しかしどのような時にも、いつも神様は共にいて先輩方の行く手を照らし、導いてくださいます。どうか愛と希望をもってこれからの道を歩み続けてください。

最後に、今日から始まる新たな歩みの上に、神様の豊かなお恵みと祝福がありますよう、心よりお祈り申し上げます。

全 恩恵（健康生活学部生活デザイン学科 3年）